



MEDIC  INFO

救急医療の現場で迅速かつ確実な 情報を授受する為に 「**Medical ID**」アクセサリー

- 欧米の状況と日本での[Medical ID]の現在と展望 -

看護師 / 救命救急士 関 智子
(有)プレシャス・アイ 鮫島 雅子

<http://www.medic-info.jp/>

「救急医療の現場で迅速かつ確実な情報を授受するために」と題しMedical IDアクセサリーについての欧米の状況と日本での現在と展望についてを発表する。
Medical IDとは何か？の前にまずはこちらをご覧ください。

救急救命のシンボル『Star of Life』

世界共通の救急救命のシンボルマーク



このStar of Lifeマーク、例えば エジプトの救急車、アメリカの救急車、フランスの救急ヘリ、日本のEMTのワッペン、日本のドクターヘリのように、世界共通の救急救命のシンボルマークとして広く利用されている。

マークの中央の蛇と杖は「アスクレピウスの杖」と言い、ギリシャ神話に登場する医学の神アスクレピウスが持っていたもので、救急医療の象徴として用いられる。

次の特徴は、6つの交差した柱。これらの6本の柱はそれぞれ救命救急の機能を表している。

時計で言う12時の所から時計回りに

- | | |
|------------------------|--|
| 1 DETECTION・・・発見 | 4 On Scene Care・・・現場手当 |
| 2 REPORTING・・・通報 | 5 Care In Transit・・・搬送中 手当 |
| 3 RESPONSE・・・応答(迅速な行動) | 6 Transfer to Definitive Care・・・医療機関への引き渡し |

という意味を持つ。

「Star of Life」は1977年、アメリカ合衆国 運輸省 幹線道路交通安全局(以下 NHTSA) によって特殊な商標である証明商標として 商標登録された。また、Star of Lifeの使用に関しては、NHTSAがガイドラインを作成しており、アメリカでは一定のレベルをクリアした救急車のみが車体にデザインをすることが許されます。その他の場合大雑把に言えば救急救命に携わる場合には使用を許可している。

ガイドラインについての詳細は文章があるので後ほど声をかけてください。

Medical IDではこのStar of Lifeやアスクレピウスの杖をモチーフにすることで、救命救急に関わる装身具である事をアピールしている

「Medical ID」とは・・・

既往症、アレルギーetcの大切な情報を刻印し
身につけるアクセサリー



<http://www.medic-info.jp/>

ではMedical IDとは何か。Medical IDとは 既往症、疾患、アレルギー、服用薬など、もしもの際に役立つ情報を刻印して身につける為のアクセサリーなどの事。一般的な装身具との識別の為、表面に救急救命のシンボルマーク「[Star of Life](#)」もしくは「[アスクレピウスの杖](#)」のマークが表示されているものが大多数。緊急時、意識不明または混濁時など、口頭で伝えられない場合に、医療情報やパーソナルデータを伝える事ができ、初期処置及び搬送先選択等に非常に貴重な情報となりえる。

欧米でのMedical ID

- 欧米では「**Medical ID**」や「**Medical Alert Jewelry**」の総称で呼ばれYahoo! USA のカテゴリとしても登録されている。

http://dir.yahoo.com/Business_and_Economy/Shopping_and_Services/Health/Medical_Alert_Jewelry/ (2007/05現在)

- アメリカの救急隊員(EMT)は緊急時には「Medical ID」や「Medical Alert Jewelry」を探すようにプロトコール化されている。

13. When performing medical or trauma assessments, the EMT should consider a sweep for medical alert jewelry, Comfort One identification, or cards identifying the patient as having a do-not resuscitate order (Comfort One), living will, or wishing to make an anatomical gift.

参考資料(*1): Skill Sheets Emergency Medical Technician-I, II, & III
Section of Community Health & EMS Division of Public Health Department of Health and Social Services
<http://www.chems.alaska.gov> Version 5b, Revised January 10, 2001



<http://www.medic-info.jp/>

元々Medical IDは欧米で始まったもの。

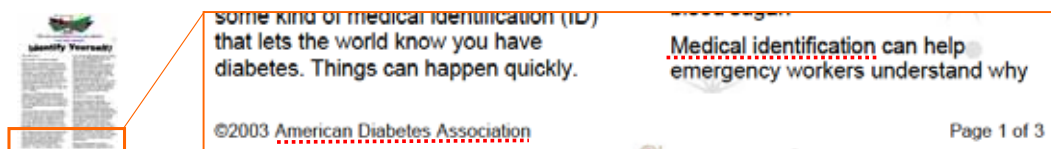
欧米では、「**Medical ID**」や「**Medical Alert Jewelry**」の総称で呼ばれYahoo! USA のカテゴリとしても存在し、すでに一般化している。

また、アメリカの救急隊員(EMT)は緊急時には「Medical ID」や「Medical Alert Jewelry」を探すようにプロトコール化されている。



海外での医療現場や社会との密接性

- 各患者団体や医療情報ソースなどでも積極的に推奨されている



- 退院時の指導に「Medical ID」の携帯を指導する医療機関も多い。
- アメリカには「Medical ID」の普及活動に50年以上の歴史を持ち、イギリスを始めとした9カ国に拠点を持つ非営利慈善事業団体「**MEDIC ALERT財団**」があり、活動は広く社会的にも認知されている。



糖尿病、てんかん、食物アレルギーなどの各患者団体でもMedical IDについての情報などを患者向けに提供している。
(画面はアメリカ糖尿病協会(ADA)のサイトでMedical IDについて記載されたドキュメント)

他にも アメリカのメディカル百科辞典のてんかんのページでも、「Should」という強い単語を用いて患者への使用を薦めている。

また、退院時の患者の指導の際に、医療従事者から Medical IDを使うようにと指導をする場合も多い。

もうひとつ、欧米で社会的に一般化している大きな要因として「MEDIC ALERT財団」という財団がある。この財団はアメリカに本拠地を置く50年以上の歴史を持ち、いわゆる「Medical ID」を用いて緊急医療情報サービスを提供する非営利団体。現在では9カ国に拠点を持って活動している。

拠点: オーストラリア、カナダ、アイスランド、ニュージーランド、ジンバブエ、イギリス、キプロス、マレーシア、南アフリカ 計9カ国

アクセサリーなどに電話番号とID(パーソナル情報も)が刻印されており、EMTもしくは医療従事者が24時間体制のコールセンターに電話をして医療情報やパーソナル情報を聞くことができる。それと同時に家族にも緊急連絡を行う。

以前日本でも、“日本メディック・アラート国際協会”という財団が同様のサービスを行っていたようだが、現在活動は行われておらず、メディックアラート財団との連携もとられていないようだ。(メディックアラート財団側に確認)

“日本メディック・アラート国際協会”

救命・救急事業を進める財団として昭和58年に総務省及び厚生労働省により設立許可された。
(当時の活動内容およびなぜ辞めてしまったかは不明)



実際のMedical ID例 -その1



普通のアクセサリとの識別の為、表面に「Star of Life」
もしくは「アスクレピウスの杖」のマークが表示されている。

<http://www.medic-info.jp/>

実際にMedical IDにはどんなものがあるのか。

いわゆる一番多いパターンのブレスレット。裏面に情報を記載。

時計、こちらも裏面に情報があるパターン。

ティーン向けにキュートなイメージのチェーン。スポーツタイプもしくはBOYS向けのもの。

USBメモリタイプ 例えばレントゲンデータなどの大きな医療情報も保存可能。
(MEDIC ALERT財団のもの)



実際のMedical ID例 -その2



アメリカではスーパーのレジ横などに気軽に手に取れるように、こういったものが置かれている事がある。

これらはよくある既往症やアレルギーのみを刻印したもので、例えば自分のアレルギーがピーナッツであれば「アレルギー:ピーナッツ」と刻印されたものを買っていく。

また、子供向けにスニーカーなどの靴紐につけておくタイプもある。

その隣は、刻印文字列を多くするために表面にも情報を刻印し、裏にも刻印できるタイプ。

日本でのMedical IDであるMEDIC INFOは Star of Lifeの他に 医療に関する情報である事を連想しやすい「**MEDIC INFO**」(Medical Informationの略)という商品名をデザインする事で「もしも…」の時に気づいてもらえる可能性をより高めている。

(日本でのStar of Lifeの認知度等を鑑みて)



「MEDIC INFO」の始まり

日本のMedical IDである「MEDIC INFO」 MEDIC INFOを始める前は・・・

- ▶ 自分で作った or 各機関から提供された患者カードを持ち歩く
- ▶ 医師に記載してもらった紙を持ち歩く



もしもの時に見つけてもらえるか不安

そこでアメリカのMedical IDを探した

- ▶ 日本人に合うサイズが少ない、デザイン性に乏しい。
- ▶ 日本語で刻印できない



- ▶ ずっと身に着けることを前提としたデザインと日本人にあうサイズ、日本語による刻印を実現。

MEDIC INFOの誕生!!

身につけておくことでの購入者への安心感の提供。

<http://www.medic-info.jp/>

以前では個人的に作ったり各機関(例社団法人日本糖尿病協会)から提供された患者カードや、医師に記載してもらった紙を持ち歩くという事があったが、もしもの時に見つけてもらえるのか?という心配があった。

財布の中に入れる 交通事故などで飛ばされ手元から離れてしまえば、自分のものである事をわかってもらえない心配。
携帯電話 上記と同様に手元から離れてしまえば、自分のものである事をわかってもらえない心配。水没衝撃などで壊れてしまう心配。

そこでアメリカにMedical IDというものがあると知り、これらを探してみたが、日本人に合うサイズやデザインのものが少ない。

デザインは大雑把なものが多かった。さらに一番のネックは日本語で刻印できないこと。

そこで、ずっと身に着けることを前提としたデザインと、日本人にあうサイズ、日本語による刻印を実現するためにMEDIC INFOを始めた。

MEDIC INFOの活動を始めてみて気づいた事。

案外自分の病名を正確に言えない人も多い。聞きなれない or 長い名前など。刻印する事で自分でも自覚し、覚えづらい病名でも正確に伝えられるという利点もあるようだ。

これは喜ばしい事でもあるが、実際にご購入いただいた方々から 救急搬送されたという報告はいただいていない。
この為 実際の緊急時の利点欠点等の情報が不明ではある。

先日 ペンダント購入ユーザから「チェーンが切れたのでチェーンを買いたい」との連絡を受けた際

「チェーンがないとつけていられないので不安を感じる。なるべく速く手に入りたい」とのお話があり、逆に言えば、普段いつも身につけておくことで安心感を持っていたというのだなぁと実感した出来事だった。



「MEDIC INFO」購入者の統計

アクセサリ種別	比率
ペンダント	30.9%
ブレスレット	69.1%

使用者性別	比率
男性	40.0%
女性	60.0%

使用者年齢	比率
～19歳	7.3%
20～39歳	23.6%
40～59歳	41.8%
60歳～	27.3%

(複数選択形式)

刻印内容	比率
パーソナル情報	18.2%
糖尿病	16.7%
病院情報	12.1%
アレルギー	7.6%
ワーファリン	7.6%
てんかん	6.1%
高血圧	3.0%
狭心症	3.0%
ペースメーカー	1.5%
IgA腎症	1.5%

<http://www.medic-info.jp/>

これはおよそ2年間の活動での購入者統計データ。

< アクセサリー種別 >

ブレスが多い。手首につけておいたほうが発見してもらいやすいとの考え方から来ているようである。

余談：年配の男性の場合ペンダントを好まれる比率が高くなる。おそらくブレスレットをつける事への気恥ずかしさからではないか。

< 性別 >

当初の予測どおり女性が多い。実はもっと男性の比率が低いと考えていた。全体的に男性のアクセサリーに対する抵抗感は少なくなってきたのではと推測。

< 購入者層年齢 >

60歳以上のシニア層がもう少し多いのではと予測していたが、実際には 40～59歳の層がトップとなった。これにより中高年齢層の自己管理への積極的で前向きな姿勢がうかがわれる。

< 刻印内容について >

こちらは予測とほぼ同等ではあったが、意外な点として「ワーファリン服用」についての刻印を依頼する購入者が多かったことをあげたい。ワーファリン服用の場合、100%と言っていいほど医療関係者から退院時などに内服指導をされると思うが、これらの指導によって患者自身の自己管理意識が高まっていることがうかがえる。

この意識の高まりが “もしもの為にMedical IDのような物を身に付けておきたい” という前向きな行動につながっているのではと思われる。

つまり「医療関係者からの積極的なアプローチは患者側の意識を変えていく大きな動機付けになる」という事を物語っているように推測している。



ぜひ「Medical ID」を知ってください！

- ✳️「MEDIC INFO」を始めとした「Medical ID」のような情報伝達手段となるアクセサリーがあること。
- ✳️「Medical ID」の情報を見る事で迅速な対応が出来る可能性があること。
- ✳️医療従事者から患者へのアプローチ(推奨)を推し進めていただきたい。

<http://www.medic-info.jp/>

このような発表の場をいただき、皆様にもこれをきっかけにぜひ「Medical ID」を知っていただきたい。

「MEDIC INFO」を始めとした「Medical ID」のような情報伝達手段となるアクセサリーがあること。

「Medical ID」の情報を見る事で迅速な対応が出来る可能性があること。

また、医療従事者から患者へのアプローチ(推奨)を推し進めていただきたい。

と考えております。

Medical IDやStar of Lifeの認知度があがれば、MEDIC INFOに気づいてもらえる可能性がより高まっていく。
この為にも、MEDIC INFOをはじめとしたMedical IDの認知度をアップしていきたい。



最後に

日本のMedical IDに期待する未来像

- ▶MEDIC ALERT財団のような国際的な非営利団体が出る事
- ▶ ICチップなど電子化による大量情報を記憶保持できる仕組へのステップアップ

最後に

私たちは**MEDIC INFO** の普及と共に「Medical ID」、「Star of Life」も広く認知されることを期待しています。

MEDIC INFO やMedical ID、Medical Alert Jewelry、Star of Lifeにつきまして何かございましたら、ぜひご一報くださいませ。

プレシャス・アイ 鮫島 (さめしま)

E-Mail: medic-info@medic-info.jp

TEL:03-3467-0484 FAX:03-3485-8628 <http://www.medic-info.jp/>

日本のMedical IDに期待する未来像

- ▶MEDIC ALERT財団のような国際的な非営利団体が出る事
- ▶ ICチップなど電子化による大量情報を記憶保持できる仕組へのステップアップ

を期待している。

その為にも 医療現場でのIT化。共通インフラの整備などの今後の動向にも期待している。

救急の現場、医療の現場に携わる方々や一般の方々の1人でも多くの方に「**MEDIC INFO**」のような装身具があることを知っていただけますよう、ご協力よろしくお願いいたします。